



さて、フリッツ君のお洋服は、こんな赤い半ずぼん。



「これもなかなか可愛いんだけど...。」

だけど、ある夜、ベッドの上によじ登り、わざわざちょっとカッコつけたポーズキメたフリッツ君が、おもむろに話しかけてくる。

「ボク、せっかく着替えもできるんだし、ちょっと趣向を変えた新しいお洋服が欲しいなあ。」

「うーん、そうだねえ。どんなのがいいのかな。」

「ボクはさ、結構ね、シマシマなんか似合うと思うんだけど。」

「ちょっとレトロで小粋な、ホラ、なんていうか、そういうの。」



そっでっか...で、せっせと、シマシマ。



できた！

どうだい？

ウン、なかなか♪

さあ、着てみてごらん。



「どうかな、似合うかなあ...。」

もう遅いから寝なさい。

明日の朝、コレ着てみんなに挨拶しようね。



へびくん、おはよう、初めまして。仲良くしようナー。



赤いネッカチーフがお洒落じゃねえか。...オレたち、仲良くなれそうだなっ。



いい日だね、ホラ、澄んだ秋晴れ、飛行機雲だ。



近所の公園にも、秋の色。

なんだか嬉しいなあ、生まれてきて嬉しいなあ。  
世界ってきれいだ、何もかも生まれて初めてだ。

...まだまだ生まれたばかりのフリッツ君、そんなこと言ってる間に、一日が終わる。



秋の日はつるべ落とし。  
お日さま沈んでく。真っ赤になって溶けてゆく銅のようだ。



お月さまだー！



あんまり明るい月明かり、こんなに影ができるんだね。



夜も更けて、オリオン。

おやすみなさい。



編みカエルのフリッツ君、新しい服。

<http://p.booklog.jp/book/60086>

著者 : yamamomon

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/yamamomon/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/60086>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/60086>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ